

小児歯科シミュレーション課題作成と ビデオ撮影を取り入れたロールプレイの評価

森川和政¹⁾ 永松 浩²⁾ 佐伯 桂¹⁾
鬼塚千絵²⁾ 竹内靖博¹⁾ Wichida Chaweewanakorn¹⁾
木尾哲朗²⁾ 牧 憲 司¹⁾

要旨：近年、シミュレーション教育は歯学教育に広く取り入れられているが、その実施には質の高いシミュレーション課題、教材の蓄積が不可欠である。学修者ができるだけ多くの症例を体験できるような環境作りを構築するためには、課題作成とその検討が必要である。今回、小児歯科臨床で高頻度に遭遇する症例の患児・保護者シナリオを作成し、同意を得られた研修歯科医を対象としてロールプレイを実施し、その様子をビデオで録画した。終了後のフィードバックとアンケートから、テーマに対する学修者の準備状況の確認や、実施前にわかり易くシナリオを提示することが重要であると考えられた。またフィードバックでは、指導者は評価のみを行うのではなく、学修者自らが気づけるようなフィードバックを心がけることで失敗を学びに変え、何を学んだかを学修者自身がまとめることが重要であると考えられた。ビデオによるフィードバックは簡便でかつ反復利用が可能であり、学修者の気づきを促し、指導者、学修者、模擬患者、その他の参加者全員で気づきを共有できる方法であることが確認できた。

Key words：歯学教育、シミュレーション教育、医療面接、ロールプレイ、フィードバック

緒 言

近年、シミュレーション教育は歯学教育に広く取り入れられているが、その実施には質の高いシミュレーション課題・教材の蓄積が不可欠である¹⁾。臨床研修中の研修歯科医や臨床実習中の学生が、多くの患者を通して臨床経験を積むことは、患者の協力度や症例の難易度などの理由から制限がある²⁾。このような背景から、多くの臨床疑似体験が積めるように臨床経験不足な診療内容を補う目的で、シミュレーション教育が注目されている¹⁾。小児歯科学領域でも、学修者ができるだけ多くの症例を体験できるような環境作りを構築するために、シミュレーション課題作成とその検討が必要である。ロールプレイを含むシミュレーション教育は、小児歯科領域では、患児が低年齢であること、それに加えて二者（医療者と

患者）のみならず三者（医療者と患児と保護者）の関係となることから、既存の方法では対応が難しいため、新たな教育方略の検討が必要である。また、行動目標を設定した模擬体験型臨床実習・研修を実施することは、小児歯科臨床において要求される基本的診察態度の改善と、医療面接や患児、保護者への指導の方法に関する理解度の向上に有効であるといわれている^{3,4)}。患児とその保護者を対象とするシナリオを用いたロールプレイを重ねることにより、患者と歯科医師の二者間のコミュニケーションとは異なる『pediatric treatment triangle：小児治療の三角』⁵⁾で表現される患児、保護者そして歯科医師の三者間の信頼関係の確立に有効であると考えられている^{3,4)}。

今回、小児歯科臨床で高頻度に遭遇する症例の患児・保護者シナリオを作成し、同意を得られた研修歯科医を対象として、ロールプレイ形式の演習を実施し興味ある知見を得たので報告する。

対象および方法

1. 対象

実習内容を説明し、同意の得られた研修歯科医 13 名（男性 7 名、女性 6 名）を対象とした。

¹⁾九州歯科大学健康増進学講座口腔機能発達学分野
福岡県北九州市小倉北区真鶴 2-6-1
(主任：牧 憲司教授)

²⁾九州歯科大学口腔機能学講座総合診療学分野
福岡県北九州市小倉北区真鶴 2-6-1
(主任：木尾哲朗教授)
(2015 年 8 月 17 日受付)
(2015 年 9 月 16 日受理)